

石垣市長 中山義隆 様

## 大発生オニヒトデ駆除と赤土流出防止自然再生事業 要請文

平成22年 9月 9日

八重山ダイビング協会 会長 園田真

平成20年オニヒトデ駆除数6万5千匹を記録したオニヒトデ大発生は、平成21年9万5千匹と増加して、29年前の年間51万匹駆除をピークとした過去の大発生再来を予測させます。29年前の大発生時と違い現在はダイビング業者の大幅な増加があり、八重山ダイビング協会員は82業者、就労するスタッフを含めると200人以上になります。協会員は自らの職場であるサンゴ礁を守るためのボランティア精神も高く、ガイド中の駆除やモニタリングによるオニヒトデ集団情報もあって多数の駆除成果を上げていますが、今年の6月より目立ち始めた昨年誕生したチビオニヒトデの急激な増加は29年前には確認すらされていませんでした。29年前1980～1984年の5年間に渡った年間10万匹以上駆除の再来なのです。

世界に前例のないチビオニヒトデ駆除によるサンゴ礁保全活動も、協会員が自主的にナイトダイビングによる駆除を始めてから大きな成果を上げており、6月296匹、7月428匹、そしてナイトダイビングによる駆除を始めた8月は10,172匹に達しました。しかしナイトダイビングによる駆除は沖縄県オニヒトデ緊急駆除事業の委託業務対象にならず、すべてボランティアでの駆除活動を今も継続中で、ナイトダイビングの回数は9月9日現在18回に及び、参加延べ人数は231人にまで至っています。

大発生時の対応に必要なのは、駆除に対しての事業費を十分に準備していただく事と、大量のオニヒトデに負けない多数の駆除人員を確保することですが、八重山漁協への5年継続委託業務が海域を限定していて、現実の大発生海域をカバー出来ていないことや八重山漁協所属の電灯潜り組合60～80人の活用が配慮されていない事など、大発生に向けた現実的な対応が出来ていません。

石垣島サンゴ礁は、八重山海域全体への種苗源である可能性が高く、観光資源や漁業資源にとどまらず自然社会資本としての重要性を備え持つだけでなく、日本のサンゴ礁を代表すると言っても過言ではありません。

つきましては、関係する行政機関に対して石垣市より強く現状を伝え、国内サンゴ礁面積の半分以上の54.75%に及ぶ八重山サンゴ礁を守るために要請いただく事をお願いします。

要請先としては内閣府沖縄総合事務局、環境省那覇自然環境事務所、沖縄県文化環境部自然保護課、オニヒトデ大発生の原因と言われる赤土流出では、沖縄県農林水産部農地水利課、文化環境部環境保全課などがあります。

文責 八重山ダイビング協会 環境対策委員 佐伯信雄